ふれあい学びあい ⑲

光中でＡＬＴ（英語指導助手）として３年間ご活躍頂いたダニエル・ホーバス先生が７月25日で退任しました。中学生にとっては、世界を身近に感じることができました。お世話になったみなさんにお別れのあいさつを紹介します。

Daniel C. Horvath

私は３年前に国際化を推進するために、英語指導助手として日本にきました。

光町での生活は本当に楽しかったのですが、次に進むときが来ました。

たくさんの友達とたくさんの思い出を作ることが出来ましたが、光町を去るにあたって一番つらい事はすばらしい友達と別れることではなく、また私が３年間生活した場所から離れる事でもないのです。友達はいつまでも友達で、この町はいつまでもここにあるからです。私は日本から離れるわけではないので、友達と話したいと思ったり、会いたいと思えばそれは可能なこと。光町を見たいと思ったらいつでも見ることが出来ます。でも、２度と光町に戻ることができず、友人に会うことがなくても、ありがとうとさよならを言える機会が十分あったので、私は安心してこの町から去ることが出きます。

１番つらいのは１・２回しか会わなかった人に、ちゃんと挨拶を言えなかったことです。この３年間を振り返ってみると本当に短く感じます。あっという間に過ぎたような気がします。全ての時間と出会いが私にとって大切な思い出になりました。親切に私に手を振ったり挨拶をしてくれた人達から、食堂で飲み物をごちそうしてくれた方々、道で走って駅にむかっている時に車に乗せてくれた方、ふるさと祭りでおみこしの手伝いに招待して下さった谷中の方々、今では毎日の習慣になっている近所の人たちとの「いってらっしゃい」、「おはようございます」、「こんにちは」、「こんばんは」そして「お帰りなさい」という挨拶。このような小さな事が当たり前のようになってきたんですが、もうなくなると思うと、とてもさびしく思います。

全ての時間が大切な思い出
ありがとう・さようなら

私は８月から東京で暮らして、仕事をすることになりました。東京に行っても光町と同じように友達と思い出をたくさん作ると思いますが、前に述べた小さな出来事はそんなにないでしょう。小さな町でしか経験することができないことだと思うからです。

町中の人が読む広報紙の中で、私はこのようにお世話してくださった方に感謝の気持ちを伝えたいと思います。あなた達が私の毎日を明るくしてくれました。それは光と呼ばれている町の人たちの特徴だと思います。

いつまでも伝えたい
～七夕の馬づくり～

南条小学校で６月28日、南条地区のお年寄りの指導を受けながら、七夕の馬づくりをしました。馬の材料は「まこも」で、なかなか作れなかった子供たちも、おじいさんたちの見事な手さばきによる指導を受けて、できあがった大小の牛・馬に大満足。さっそくおみやげに持ち帰りました。

また、日吉保育園でも先生方が、園児に教えようと馬づくりをしました。

世の中の移り変わりとともにしだいに姿を消してしまう行事を、いつまでも伝えていきたいものです。

◀おじいさんの鮮やかな手さばき

▲いよいよ完成（日吉保育園）

ことわざガイド

一粒の麦（ひとつぶ むぎ）

○多くの人々の幸福のために、自ら進んで犠牲になる人のたとえ

地に落ちた一粒の麦が多くの実を結び、永遠の命を得るという「新約聖書」の言葉から。